

## 若桜鉄道観光列車「昭和」「八頭号」運行開始以降の経済効果

2018年3月に運行開始した「昭和」、2019年3月に運行開始した「八頭号」これら2つの若桜鉄道観光列車による2018年3月～2019年12月末までの期間中の経済効果は、1億3,174万円と試算されました。

期間中に観光等による直接効果8,574万円に加え、県内各産業や、個人消費による波及効果として4,600万円が誘発されたと見込まれます。

2018年3月～2019年12月末の期間中の経済効果の内訳では、交通・宿泊を含む観光事業・飲食業で7,063万円を占めますが、その他のサービス業では、施設・金融・情報通信などを中心に4,198万円、飲食料品製造を中心に工業で1,357万円、農林水産業で556万円となっています。

### 【経済効果について】

観光列車「昭和」「八頭号」の運行により、地域内に観光客など顧客（消費者）による、新たな需要が生じました。その需要を満たすために、消費者に対して観光業・飲食業などによる生産活動が行われたこととなります。この生産増を**直接効果**と呼びます。また、それによって食事・お土産の原料の生産など、様々な産業で地域内の生産が誘発されます。この各産業で誘発された経済効果を**第一次波及効果**と呼びます。一次波及効果により生産が増えると、その事業所で働く人の雇用や所得が増えます。その増えた所得での消費による生産増を**第二次波及効果**と呼びます。それらを合わせて**波及効果**と呼びます。この直接効果と波及効果の合計を**経済効果**と呼びます。